

# 高知県感染症発生動向調査（週報）

2015年 第43週（10月19日～10月25日）

## ★お知らせ

### ○手足口病に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第42週の1.13から第43週は1.20とほぼ横ばいですが、中央西、安芸、幡多、中央東、須崎で増加し、中央西、安芸では注意報値を超えています。

この病気は、4歳くらいまでの幼児を中心に夏季に流行が見られる疾患であり、2歳以下が半数を占めますが、学童でも流行的発生がみられることがあります。

学童以上の年齢層の大半はすでにこれらのウイルスの感染（不顕性感染も含む）を受けている場合が多いので、成人の発症はあまり見られません。

通常は3～5日の潜伏期をおいて、口の中、手のひら、足の裏や足背などに2～3mmの水疱性発疹ができ、時に肘、膝、臀部などにも出現します。

まれに髄膜炎、脳炎、心筋炎などを生じることがありますので、高熱や嘔吐、頭痛などがある場合は注意してください。

また、倦怠感や口腔内の痛みなどから食事や水分を十分にとれず、脱水になることもありますので、こまめな水分補給を心がけてください。

感染は、飛沫、経口及び接触感染です。感染者との密接な接触を避け、手洗いをしっかりとしましょう。

回復後にも2～4週間の長期にわたり便の中にウイルスが排出されることがありますので、日頃からしっかりと手洗いが大切です。

### ○マイコプラズマ肺炎に気を付けて！

第43週は基幹定点から4例、定点医療機関からのホット情報では11例、学校欠席者情報収集システムでは16件報告がありました。

マイコプラズマ肺炎の定点当たりの報告数が8月上旬から増えています。10月上旬からはホット情報の報告数が増加していますので注意しましょう。

#### マイコプラズマ肺炎の発生動向とその予防対策

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマ(*Mycoplasma pneumoniae*)という細菌によって引き起こされ、激しい乾いた咳、発熱、全身倦怠感が主な症状で、学校、幼稚園、保育園、家庭等で地域的に集団発生すると言われています。好発年齢は、6～12歳の小児であり、小児では発生頻度の高い感染症の一つです。潜伏期は2～3週間とされ、飛沫で感染します。異型肺炎像を呈することが多いです。頑固な咳嗽と発熱を主症状に発病し、中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などの合併症を併発する症例も報告されています。重症肺炎となることもありますので注意が必要です。予防方法としては、手洗い・うがい・マスクの着用による一般的な予防方法の励行と早期の医療機関受診を心がけてください。

### ○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第42週の1.40から第43週では1.77と増加しています。中央東、安芸、幡多、中央西で増加しています。また、定点医療機関からのホット情報ではカンピロバクター感染症が2例、サルモネラ症が1例報告されています。

毎年この時期からノロウイルスなどの感染性胃腸炎の報告数が増えてきます。この病気は腹痛、嘔吐、下痢、発熱を主な症状とし、冬場に流行する代表的な感染症です。乳幼児に好発し、1歳以下の乳児は症状の進行が早いです。37～38℃の発熱がみられることもあります。年長児では吐き気や腹痛がしばしばみられます。特にノロウイルスを原因とする場合、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。予防法で最も大切なのは手洗いです。排便後、また調理や食事の前には石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

#### 感染性胃腸炎の流行に伴うノロウイルスの感染予防対策について

このことについて、平成27年10月23日付け事務連絡で、厚生労働省健康局結核感染症課及び医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部監視安全課から感染予防対策の啓発依頼がありましたのでお知らせします。

この通知では、国立感染症研究所（以下、「感染研」という。）によると、この秋以降発生している集団感染事例について、検出されたノロウイルスのほとんどが、これまで検出例の少ない遺伝子型（GⅡ.17）であり、今シーズンの感染性胃腸炎についてノロウイルスによるものではGⅡ.17が主流となる見通しとしており、流行が拡大する可能性があります。

加えて、ノロウイルスGⅡ.17については、これまでの流行の主体であったノロウイルスGⅡ.4と比較して、現在市中で使用されているノロウイルス迅速診断検査キット（ICキット）による検出感度が低いこと

が報告されています。このことから、感染研は、同診断キットを用いた場合、ノロウイルスによる感染症と診断されず感染予防策の遅れにつながる恐れがあることなどを指摘していますので十分ご注意下さい。

<ノロウイルス関連情報掲載ページ（参考）>

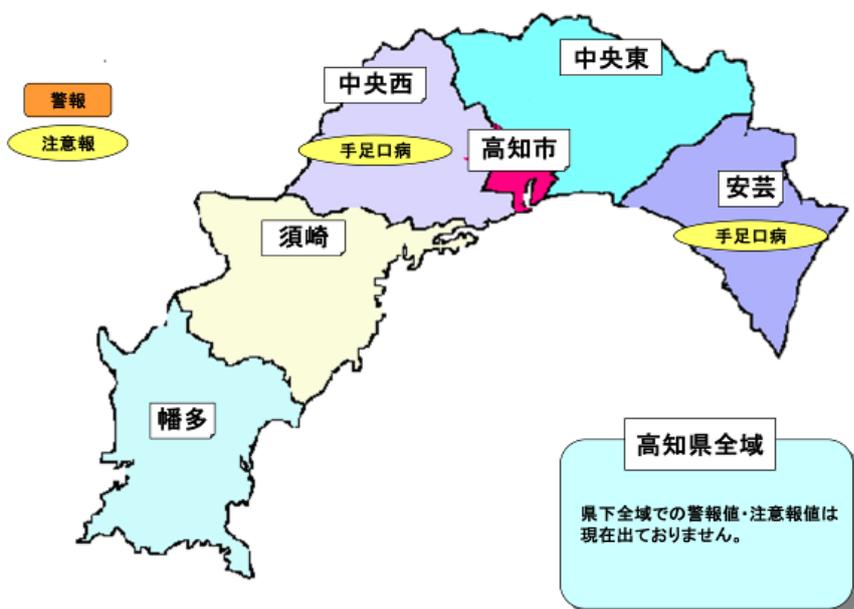
- ・ ノロウイルス等検出状況 2015/16 シーズン  
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-noro.html>
- ・ ノロウイルス GII.17 型の流行とその特徴について－三重県(IASR 2015 年 5 月号)  
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/1023-disease-based/na/norovirus/idsc/iasr-in/5695-kj4233.html>
- ・ Evaluation of immunochromatography tests for detection of novel GII.17 norovirus in stool samples (Eurosurveillance 2015 年 7 月 16 日)  
<http://www.eurosurveillance.org/ViewArticle.aspx?ArticleId=21185>
- ・ ノロウイルスに関する Q&A（最終改定：平成 27 年 6 月 30 日）  
[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html)
- ・ ノロウイルス等の食中毒予防のための適切な手洗い（動画）  
<http://www.youtube.com/watch?v=z7ifN95YVdM&feature=youtu.be>

### ★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減  
43週（10月19日～10月25日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	↗	1. 77	中央東、安芸、幡多、中央西で増加しています。
RS ウイルス感染症	↘	1. 23	須崎で増加しています。
手足口病	→	1. 20	中央西、安芸、幡多、中央東、須崎で増加し、中央西、安芸では注意報値を超えています。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	1. 07	高知市、安芸、中央東、中央西で増加しています。
水痘	→	0. 23	中央東で増加しています。
突発性発疹	→	0. 23	須崎、中央西で増加しています。

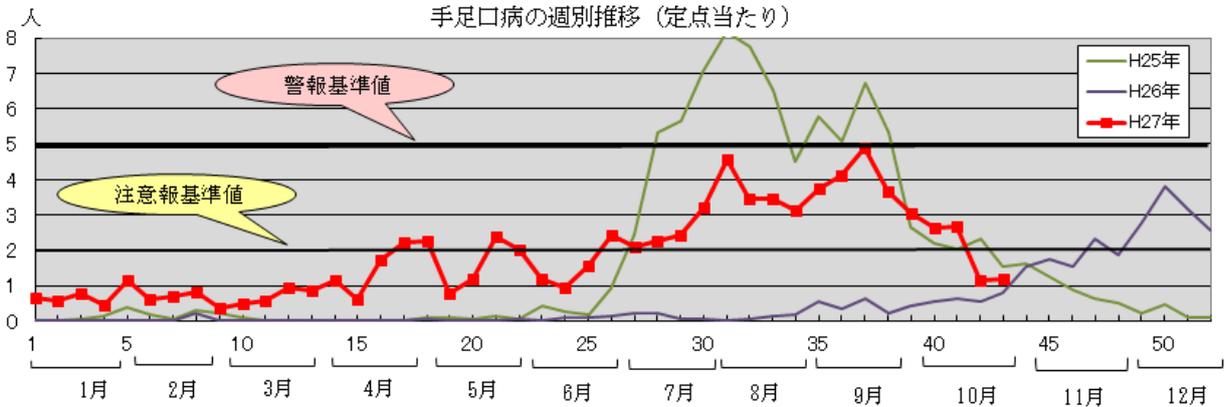
### ★地域別感染症発生状況



★気をつけて！

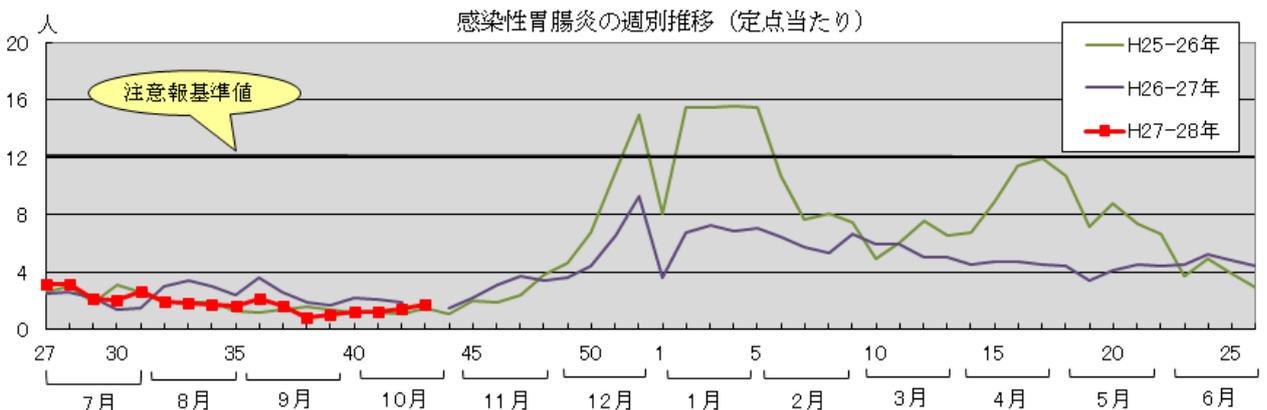
○手足口病： 1.20 (注意報値：2.00 警報値：5.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.20 (前週 1.13) とほぼ横ばいです。地域別にみると中央西 3.00 (前週 2.00)、安芸 2.00 (前週 1.00)、幡多 0.80 (前週 0.20)、中央東 0.71 (前週 0.57)、須崎 0.50 (前週 0.00) で増加しています。中央西、安芸では注意報値を超えています。



○感染性胃腸炎：1.77 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.77 (前週：1.40) と増加しています。地域別にみると中央東 3.29 (前週 2.71)、安芸 2.50 (前週 2.00)、幡多 1.20 (前週 0.20)、中央西 1.00 (前週 0.67) で増加しています。



★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
43	感染性胃腸炎	2	女	中央東	Astrovirus NT
43	急性喉頭炎	9ヶ月	男	中央東	Respiratory syncytial virus A
43	肺炎	5ヶ月	女	中央東	Respiratory syncytial virus A

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
41	咽頭炎	1	女	高知市	Parechovirus 1
42	手足口病	4	女	高知市	Coxsackievirus A6
42	不明熱	2ヶ月	男	高知市	Echovirus 18

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	112	80歳代(女)	須崎
		1	113	80歳代(女)	高知市
		1	114	60歳代(男)	
5類	水痘(入院例に限る)	1	2	10歳代(女)	幡多

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	おひさまこどもクリニック	アデノウイルス咽頭炎 1 例 (1 歳男)
	野市中央病院小児科	カンピロバクター腸炎 1 例 (1 歳女) ※42 週検出
	早明浦病院小児科	E. coli O-127a 1 例 (1 歳男)
		カンピロバクター 1 例 (8 歳男)
		E. coli O-166 1 例 (3 歳男)
高知市	けら小児科・アレルギー科	E. coli O-111 1 例 (1 歳男)
		アデノウイルス扁桃炎 1 例 (1 歳女)
		マイコプラズマ肺炎 4 例 (6 歳男、11 歳男 2 人、11 歳女)
		病原性大腸菌 O-18 腸炎 1 例 (36 歳男)
	高知医療センター小児科	病原性大腸菌 O-126 腸炎 1 例 (9 歳女)
カンピロバクター腸炎+病原性大腸菌 O-111 腸炎 1 例 (17 歳女)		
中央西	石黒小児科	サルモネラ 1 例 (7 歳女)
		マイコプラズマ肺炎 1 例 (10 歳女)
幡 多	さたけ小児科	ヘルペス性歯肉口内炎 1 例 (5 歳女)
		マイコプラズマ肺炎 6 例 (2 歳男、3 歳男、4 歳男、5 歳男、10 歳女、11 歳女)

★全国情報

第41週 (10月5日～10月11日)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核308例

3類感染症：細菌性赤痢7例、腸管出血性大腸菌感染症40例、腸チフス1例

4類感染症：E型肝炎2例、A型肝炎3例、重症熱性血小板減少症候群1例、デング熱8例、日本紅斑熱6例、マラリア2例、レジオネラ症28例

5類感染症：アメーバ赤痢15例、ウイルス性肝炎1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症27例、急性脳炎4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、後天性免疫不全症候群9例、ジアルジア症2例、侵襲性インフルエンザ菌感染症2例、侵襲性肺炎球菌感染症12例、水痘(入院例に限る)1例、梅毒25例、播種性クリプトコックス症2例、破傷風1例、風しん1例

報告遅れ：腸チフス1例、E型肝炎3例、エキノコックス症2例、デング熱2例、日本紅斑熱5例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症29例、急性脳炎4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、水痘(入院例に限る)3例

#### ◆ インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられる。主な感染経路は咳、くしゃみ、会話等から発生する飛沫による感染（飛沫感染）であり、他に飛沫の付着物に触れた手指を介した接触感染もある。感染後、発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続くが、いわゆる「通常感冒」と比べて全身症状が強いことが特徴である。通常は1週間前後の経過で軽快する。

2015/2016年シーズン〔2015年第36週（2015年8月31日～9月6日）以降〕のインフルエンザは、2015年第41週（2015年10月5～11日：2015年10月14日現在）では定点当たり報告数は0.06で、過去数週間において同程度の水準で推移している（インフルエンザの年別・週別発生状況）。基幹定点からのインフルエンザによる入院患者数（インフルエンザ入院サーベイランス）の状況においては、過去数週間、週当たり5～9例で推移していたが、直近の第41週における入院患者数は11例とやや増加した。なお、今シーズンの累積入院患者数は70歳以上の高齢者が21/45例（46.7%）と約半数を占めた（インフルエンザの発生状況について）。2015年第41週（2015年10月14日現在）までの都道府県別定点当たりの報告数は、沖縄県を除き1.00を下回っており、大きな増加はみられない。沖縄県は今シーズン開始より、毎週定点当たりの報告数が1.00以上で推移しており、第41週では1.22（前週は1.24）であった。今シーズン開始以降、これまでAH3亜型15株、AH1pdm09型10株、B山形系統2株、Bビクトリア系統1株が検出された（2015年10月16日現在）。

例年のインフルエンザ流行は、定点当たり報告数が1.00以上（流行開始の指標）となる11月末から12月にかけて流行が開始し、ピークは1月末から2月上旬が多い。2014/2015年シーズンは例年と比較すると、2週間程度早く立ち上がり、ピークの時期は1月中旬から下旬となった〔今冬のインフルエンザについて（2014/15シーズン）〕。昨シーズンはAH3亜型が主流となり、長期療養者医療施設等で集積事例を認めた。今後、インフルエンザの流行期を迎えるにあたり、飛沫感染対策としての咳エチケット（有症者自身がマスクを着用し、咳をする際にはティッシュやハンカチで口を覆う等の対応を行うこと）、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生を徹底することが重要である。高齢者における感染への警戒の観点から、医療・福祉施設へのウイルスの持ち込みを防ぐために、関係者が個人で出来る予防策を徹底すると同時に、訪問者等においては、インフルエンザの症状が認められる場合の訪問を自粛してもらう等の工夫が重要である。なお、65歳以上の高齢者、又は60～64歳で心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、あるいはヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方は、予防接種法上の定期接種の対象となっている。

.....

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第43週 平成27年10月19日(月)～平成27年10月25日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第43週							計	前週	全国(42週)	高知県(43週末累計)		全国(42週末累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H26/12/29～H27/10/25				H26/12/29～H27/10/18		
インフルエンザ	インフルエンザ								( )	( )	370 ( 0.08)	15,334 ( 319.46)	1,152,080 ( 234.07)		
小児科	咽頭結核熱				1				1 ( 0.03)	1 ( 0.03)	810 ( 0.26)	138 ( 4.60)	55,742 ( 17.72)		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	6	18	2			3	32 ( 1.07)	28 ( 0.93)	5,407 ( 1.72)	2,385 ( 79.50)	310,138 ( 98.61)		
	感染性胃腸炎	5	23	16	3			6	53 ( 1.77)	42 ( 1.40)	10,393 ( 3.30)	5,187 ( 172.90)	735,500 ( 233.86)		
	水痘		2	2	1			2	7 ( 0.23)	8 ( 0.27)	1,050 ( 0.33)	465 ( 15.50)	56,842 ( 18.07)		
	手足口病	4	5	13	9	1		4	36 ( 1.20)	34 ( 1.13)	3,435 ( 1.09)	2,457 ( 81.90)	369,946 ( 117.63)		
	伝染性紅斑								( )	5 ( 0.17)	1,268 ( 0.40)	160 ( 5.33)	76,442 ( 24.31)		
	突発性発疹			4	1	2			7 ( 0.23)	7 ( 0.23)	1,446 ( 0.46)	558 ( 18.60)	69,191 ( 22.00)		
	百日咳								( )	( )	54 ( 0.02)	13 ( 0.43)	2,100 ( 0.67)		
	ヘルパンギーナ			1				1	3 ( 0.10)	5 ( 0.17)	448 ( 0.14)	951 ( 31.70)	96,282 ( 30.61)		
	流行性耳下腺炎			3				1	4 ( 0.13)	11 ( 0.37)	1,776 ( 0.56)	661 ( 22.03)	55,681 ( 17.70)		
	RSウイルス感染症		8	16	1	3		9	37 ( 1.23)	60 ( 2.00)	3,861 ( 1.22)	913 ( 30.43)	56,646 ( 18.01)		
眼科	急性出血性結膜炎								( )	( )	10 ( 0.01)	( )	386 ( 0.56)		
	流行性角結膜炎								( )	( )	557 ( 0.81)	14 ( 4.67)	18,879 ( 27.52)		
基幹	細菌性髄膜炎								( )	( )	4 ( 0.01)	7 ( 0.88)	349 ( 0.73)		
	無菌性髄膜炎								( )	( )	19 ( 0.04)	14 ( 1.75)	862 ( 1.81)		
	マイコプラズマ肺炎		1	3					4 ( 0.50)	1 ( 0.13)	289 ( 0.61)	240 ( 30.00)	6,503 ( 13.66)		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1					1 ( 0.13)	1 ( 0.13)	6 ( 0.01)	41 ( 5.13)	296 ( 0.62)		
	感染性胃腸炎								( )	( )	8 ( 0.02)	67 ( 8.38)	4,027 ( 8.46)		
計 (小児科定点当たり人数)	12 ( 6.00)	45 ( 6.29)	78 ( 6.71)	17 ( 5.66)	7 ( 3.50)	26 ( 5.20)	185 ( 5.99)			31,211	29,605 ( 782.38)	3,067,892			
前週 (小児科定点当たり人数)	9 ( 4.50)	49 ( 6.99)	108 ( 9.63)	12 ( 4.00)	2 ( 1.00)	23 ( 4.60)			203 ( 6.70)						

注 ( ) は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第43週							計	前週	全国(42週)	高知県(43週末累計)		全国(42週末累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H26/12/29～H27/10/25				H26/12/29～H27/10/18		
インフルエンザ	インフルエンザ										0.08	319.46	234.07		
小児科	咽頭結核熱				0.09				0.03	0.03	0.26	4.60	17.72		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	0.86	1.64	0.67			0.60	1.07	0.93	1.72	79.50	98.61		
	感染性胃腸炎	2.50	3.29	1.45	1.00			1.20	1.77	1.40	3.30	172.90	233.86		
	水痘		0.29	0.18	0.33			0.40	0.23	0.27	0.33	15.50	18.07		
	手足口病	2.00	0.71	1.18	3.00	0.50		0.80	1.20	1.13	1.09	81.90	117.63		
	伝染性紅斑										0.17	0.40	5.33	24.31	
	突発性発疹			0.36	0.33	1.00			0.23	0.23	0.46	18.60	22.00		
	百日咳										0.02	0.43	0.67		
	ヘルパンギーナ			0.09		0.50		0.20	0.10	0.17	0.14	31.70	30.61		
	流行性耳下腺炎			0.27				0.20	0.13	0.37	0.56	22.03	17.70		
	RSウイルス感染症		1.14	1.45	0.33	1.50	1.80	1.23	2.00	1.22	30.43	18.01			
眼科	急性出血性結膜炎										0.01		0.56		
	流行性角結膜炎										0.81	4.67	27.52		
基幹	細菌性髄膜炎										0.01	0.88	0.73		
	無菌性髄膜炎										0.04	1.75	1.81		
	マイコプラズマ肺炎		1.00	0.60				0.50	0.13	0.61	30.00	13.66			
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			0.20				0.13	0.13	0.01	5.13	0.62			
	感染性胃腸炎										0.02	8.38	8.46		
計 (小児科定点当たり人数)	6.00	6.29	6.71	5.66	3.50	5.20	5.99				782.38				
前週 (小児科定点当たり人数)	4.50	6.99	9.63	4.00	1.00	4.60			6.70						

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）  
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）  
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869